

平成23年11月13日

相模原市立博物館
館長 井上 明夫 殿

相模原市立博物館協議会
会長 坂口 滋皓

「活動状況に関する評価計画の策定」について（答申）

平成21年12月4日付で諮問のありました標記のことについて、当協議会で審議した結果、次のとおり答申します。

今後、当協議会で議論された各委員の発言趣旨を尊重され、評価計画の策定の推進に当たられたい。

1 はじめに

近年、社会・経済状況の変化を踏まえて、各博物館においても資料の収集・整理保管や展示・教育普及、調査研究等の基本的な活動の充実はもとより、運営のあり方や地域における存在意義を見直し、自己評価を行ってその結果を公表することが求められるようになってきている。

平成20年6月の「博物館法」の改正でも、第9条において運営状況について評価を行うとともに、その結果をもとに運営の改善を図るために必要な措置を講ずるよう努めなければならないことが定められ、「公立博物館の設置及び運営上の望ましい基準」においても、事業の状況を博物館協議会の協力を得つつ、自ら点検・評価を行い、その結果を公表することが示されている。

評価計画を策定するに際しては、まず博物館が置かれた現状を把握した上で使命を明確にし、それを受けて取り組む重点課題を設定することが必要である。そこで今期協議会では、当館の使命及び重点課題についてその枠組みを協議し、各委員から出された意見をまとめた。これらの意見をもとに館としての使命や重点課題を館外に示しつつ、今後の具体的な評価内容や評価項目について検討されたい。

2 相模原市立博物館の現状把握

当館は平成7年11月の開館以来、毎年12～13万人程度の入館者を迎え、すでに総入館者数は200万人を越えるまでになっている。その間、特別展や企画展・収蔵品展をはじめ、各種の講座を実施するなど盛んに事業を行う一方、公民館等への講師派遣はもとより、学社連携の視点から学校教育を支援する活動なども行って

いる。また、県内最大級のプラネタリウムドームの全天周映画やプラネタリウム番組は楽しさと親しみをもって多くの市民に受け入れられており、隣接するJAXA（宇宙科学研究所）と連携してさまざまな天文情報を提供している。

近年、生涯学習社会の取り組みや地域教育力の向上が課題となる中、市民のライフステージに対応した体系的・継続的な学習機会の充実が求められ、その要望に対して、博物館は生涯学習推進の中核として機能し、新たな地域の価値を創造する機関として期待されている。当館でも市民との協働による活動が徐々に定着してきており、運営等にも市民が関与する方向性が示されている。

このように、開館16年を経てさまざまな活動を展開しているが、いくつかの大きな課題も抱えている。常設展示のリニューアルや広域的な博物館ネットワークの推進、津久井地域の調査研究及びその成果の発表をはじめ、JAXAなどの諸施設・機関とのさらなる緊密な連携や学校教育との連携・融合、市民との協働による一層の博物館活動の展開などが挙げられる。

博物館の評価は、上記のような課題を踏まえて将来の展望を見通したものとしなければならない。また、評価に際してはその社会的な使命を明確にし、そうした使命を果たすための活動目標を市民や利用者に向けて積極的に示すことが重要である。

3 相模原市立博物館の使命

当館は、相模原を中心とした地域の自然（動物・植物・地質分野）や歴史（考古・歴史・民俗分野）を学ぶことのできる地域博物館であると同時に、天文部門を有する総合博物館として、多くの実物資料や関連するデータを収集・整理保管し、調査研究を行って展示や教育普及事業を展開している。このような博物館での諸活動に参加することを通じて、市民が地域の自然や歴史、天文を楽しく学べることが大切である。そして、地域のさまざまな姿に触れることで、自分たちが生活する地域や暮らしについて理解を深め、改めて考える場となる必要がある。市民自らが主体的な「まちづくり」を進めるための知識が得られ、また、共同して活動を展開する拠点としての役割の一端を博物館が果たすことで、「私たちの博物館」として一層地域に根付いていくことが重要である。

それとともに、「相模原」の都市としてのイメージを高め、まちの活性化を図るために、市民自らが相模原の自然や歴史をはじめとする多彩な魅力を自覚し、あるいはその魅力を継承し創造していく活動を行いながら、市内外にシティーセールスとして情報を発信していくことが求められている。

上記の点を踏まえ、当館の使命を次のように定めることが必要だと考える。

○ 地域の歴史や文化・自然に関する資料を調査研究し、また、収集した資料を適切に保存し蓄積するとともに、その活用を図りながら地域文化を継承・発信する

拠点となること

○主体的に参加した市民と協働し、あるいは地域の諸機関と広く連携していく体制を整え、市民文化の向上に資する活動を積極的に展開すること

4 重点課題

こうした使命を達成するために、今後の社会の変化に適応した運営のなかで、当館が取り組む当面の重点課題を以下の通りまとめる。

○常設展示のリニューアルと博物館ネットワーク計画の推進

津久井地域を含めた新たな構想に基づく常設展示のリニューアルに取り組むとともに、地域に残る自然・文化遺産、あるいはそれらに関わる市民の学習活動を結び付ける「相模原どこでも博物館」構想を推進し、ネットワーク化を図る。そして、資料に関連する情報等を整理して活用を図るため、情報のデジタル化や共有化、情報の発信に関わるシステムを構築する。

これらの事業を推進するには多額な経費が必要となることが想定されるが、昨今の経済状況に拠るとそのための予算を確保することがしばらくは難しい面もある。そのような現状にあっても、関係部署に対する理解と協力を得るための努力を続けると同時に、可能な事業から着手するほか、中長期的な計画に基づいてネットワークシステムの具体的なあり方の研究を進めていかなければならない。

○関連施設・機関との連携

小中学校の学習支援や公民館等への講師派遣は、市民の当館に対する現時点での評価や要望を知るための重要な契機であるとともに、博物館の存在意義を市民に示す機会となっており、今後ともそうした活動を積極的に行っていくことは当然である。それとともに、首都圏近郊に位置し、急激な住宅地・工業地化を経てきた市内には、JAXAや国立近代美術館フィルムセンター、大学、各種研究所など、博物館活動に関連する展示・資料保管施設はもとより、特徴ある施設や機関が多数設置されている。現在においても、特にJAXAや女子美術大学とは相互にメリットとなるような展示を中心とした活動がなされているように、今後ともこのような相模原の「学園都市」としての特徴を生かし、さまざまな施設・機関とともに多彩な活動を展開しながら幅広い連携のあり方を模索していく。

○市民との協働による博物館活動の展開

今日の博物館では、学芸員をはじめとするスタッフとともに、多くのボランティアが館を拠点としてさまざまな活動を行いながら運営を支えており、博物館と一般来館者との橋渡しする役割をも担っている。また、館の使命や重点課題を達

成するためには、博物館自体が市民とともに成長し、人材の育成を視野に入れて事業展開していくことが求められている。したがって、学芸員が自ら中心的に調査研究活動を行うことはもとより、地域の自然や文化について市民と学芸員がともに野外において実地調査をしたり、あるいは収集した資料を整理・活用する活動を積極的に展開する必要がある。さらに、ボランティアとして参加する市民が主体的に博物館の運営に関与する活動を推進するとともに、教員が教材作りに際して博物館で研修をする機会を充実するなど、いろいろな立場の市民が多様な点において博物館と関われるような仕組みが構築できるように検討すべきである。

5 おわりに

上記に示した使命や重点課題をもとにさまざまな活動を計画・実施し、その結果を評価して改善に結び付けていくプロセスが重要であるが、使命や重点課題は社会情勢の変化に対応しながら柔軟に見直すことも必要である。したがって、具体的な展開に当たっては、当館が置かれた現実的な財政・人員・施設等の状況を踏まえて中長期的な計画を検討し、目標とする年次計画を策定してそれに基づいた評価が行われるべきである。例えば、数年後の開館二十周年を視野に入れ、当面行うべきものと長期的に取り組むものを峻別しつつ、具体的な作業工程の策定を図ることなどが想定されよう。

また、事業評価では一般的には結果を数値化して行っており、博物館においても経費や観覧者数など、定量的に求められるものも相当数あり、この点も重要な評価項目となる。その一方で、博物館事業をこうした手法で評価するのはなじまない面もあり、両者のバランスを考慮に入れつつ、当館の活動の課題を見つけ、この後の改善につながるような評価のあり方を引き続き検討しなければならない。そして、その結果を市民に公表し、市民と一層のコミュニケーションを図りながら評価を充実させていくことが必要である。

なお、今春の大地震は、災害が起こった際に博物館としていかに対処するかを想定しておく必要性を示しており、この点も今後の重点課題の中で検討しなければならないことを付記する。

最後に、中長期計画を受けた年次計画の策定や具体的な評価手法の確立に当たっては、全国各地の動向を参考にしながら、引き続き相模原市立博物館協議会の意見を聴取し、ともに構築されることを要望する。

以 上